

中小企業の社長が節電商品 「Aらま〜」を開発

原発に頼らない社会をめざし、7人の侍が立ち上がる

ツードン（相模原市緑区東橋本、林田建一社長、042・774・1741）をはじめとした相模原市内の中小企業7社が共同で、節電機器の開発に取組み、4月下旬に販売を開始した。商品名は「Aらま〜（あらま〜）」。

一般家庭における電気料金の基本料が、適切であるかチェックする測定機器である。いずれの会社の社長も城南信用金庫のお客様の会である「淵野辺白梅会」に所属している。

開発のきっかけとなったのは、昨年の大震災後、原発による電力供給が疑問視される中で、城南信用金庫が発信した「原発に頼らない安心できる社会へ」というメッセージ。このメッセージを受け、白梅会で何かできることはないかと話し合い、昨年6月の開発着手から、約1年かけて商品化の運びとなった。

使用方法はいたって簡単。メイプルカーのケーブルにクリップ式電流センサーを取り付け、「Aらま〜」本体と接続すると、現在使用している電流量を計測してくれ

ると、電気の使用をコントロールしているという意識を持つことが大切」と考える。また、契約アンペア数を下げれば基本料金も下がるので、お財布にもやさしい。

昨今の中小企業を取り巻く厳しい環境の中、自社商品を開発することは大きなリスクが伴うため、慎重な対応をせざるを得ない。しかし、本商品の開発過程において、7社の代表者が損得抜きに知恵を出し合い、各人の得意分野を活かして、商品化に成功した。自分たちの力でこれだけのものができたという自信は、今後新たな商品を生み出す原動力となるはずだ。

（開発参加企業、代表者）駒沢化成（株）河野八朗社長、（株）ツードン林田建一社長、（株）菅原モデル菅原正弘社長、（株）アルファ技研五十嵐四郎社長、（有）松浦製作所松浦紀彦社長、（有）平山加工所平山昇社長、（株）ユニテック吉村崇弘社長



節電対策の
決定版!!
Aらま〜

節電機器「Aらま〜」

る。選択したアンペアをオーバーすると警報音で使い過ぎを知らせる仕組みだ。開発者らは、「各家庭でアンペア数を制限するこ



開発に携わった7人の侍

ツードン